

## 箱根町景観施策推進会議第 15 回会議 次第

日時：平成 25 年 2 月 7 日（木） 10：00 から 11：30 まで 場所：分庁舎 4 階 第 5 会議室
--

### 1 あいさつ

### 2 議題

- (1) 箱根町公共サインガイドラインの検証について
- (2) その他

箱根町景観施策推進会議第 15 回会議 資料目録

公共サインガイドラインに係る調査集計結果...資料 1

日 時	平成 25 年 2 月 7 日(木) 10 時 00 分から 11 時 10 分まで	場 所	分庁舎 4 階 第 5 会議室
出席者	会議メンバー：8 名(4 名代理出席) オブザーバー：2 名(田邊 学氏、芝 京子氏) 都市整備課：秋山係長、勝又主任主事、大木主任主事		
議題、会議概要等			
秋山係長のあいさつの後に、各メンバー及びオブザーバーの自己紹介を行い、本会議の今までの取り組み及び景観条例・景観計画の改正について説明した後に、議題に入っていったものである。			
1 公共サインガイドラインの検証について			
資料 1 の調査集計結果に基づき、それぞれの項目について事務局より説明しつつ、オブザーバーの意見をいただきながら協議したものである。			
2 その他			
今後、公共サインガイドラインの運用をステップアップしていくために、オブザーバーに意見をいただきながら協議したものである。			

箱根町景観施策推進会議 第15回会議 会議録

議題	発言者	(1) 公共サインガイドラインの検証について
協議		<p>平成 24 年度から施行した「箱根町公共サインガイドライン」を 10 ヶ月程運用した成果と発生した課題、不具合について、実際にガイドラインに沿って作成された看板等の画像と事前に回答してもらったアンケートの集計結果を踏まえ各課担当者及びオブザーバーから意見をいただき検証したものである。</p>
協議	<p>事務局 芝氏 観光課 事務局 学校教育課 田邊氏 田邊氏</p>	<p>観光課が作成した注意看板は、ガイドラインで定めている色彩にしているが、特に利用者からの意見や苦情などもなく、しっかり周知できているように思う。【写真 、 】</p> <p>看板周辺の草刈り等の整備がされているが、これは業者委託なのか。</p> <p>ハイキングコースの点検に合わせて観光課の臨時雇用職員が草刈り等を実施しています。コースによっては業者に委託している所もあります。</p> <p>学校看板ですが、ガイドラインに定めた色彩にしていることで風景に溶け込んでいますが、しっかり認識できるものになっていると思います。関係者からの評判も良いとのことですが、どのような方からの意見ですか。【写真 、 】</p> <p>業者や保護者からの意見が多い。「児童の安全のために可能な限り目立つ色彩にして、車両などに学校があることを認識させてほしい」との意見もあったが、ガイドラインの趣旨を説明し納得していただいた。箱根らしさ、なぜ、どうしてこのようになったのかを児童へ教えることができるため、景観教育としても有意義なものになっている。</p> <p>色彩を赤などの色にしても目立つとは限らない。例えば赤色では夕方などに非常に見えにくくなる。視認性を上げて目立つようにするには彩度ではなく明度が重要で、どの色彩でも明度を上げるようにすれば目立ってくる。</p> <p>看板やサインを目立たせようとする人は派手な色彩を使用することが多いが、何を相手に伝えたいかを念頭に置いて作成するとよい。例えば参考資料として持ってきた犬フンのマナー看板だが、まず遠くから見ても規制しているとわかるデザインにし、規制する</p>

	<p>事務局</p> <p>田邊氏 上下水道温泉課</p>	<p>ものをシンプルに表示すると非常にわかりやすくなる。設置者は1枚の看板にできるだけ情報を詰め込めようとするが、適度な余白や空間を入れたほうが利用者に伝わりやすくなる。【写真 、 、 】</p> <p>郷土資料館の誘導看板だが、ガイドラインの色彩基準に合わせた周囲に溶け込む落ち着いた感じで景観に配慮されている。しかし設置されている場所は他の事業者の看板が多く掲出されている場所であるため、折角のデザインが目立たなくなってしまう。単独ではガイドラインに合わせたものでも、設置場所によっては意味がなくなってしまうと考えています。このような場合、事業者と連携して統合した看板を出しても良いかもしれない。その際は箱根町公認の看板にすることで、事業者に費用を負担してもらうことも一つの手であると思う。【写真 、 、 】</p> <p>観光地である箱根町ならではのアイデアが良いと思います。統合した看板を出しても、定期的に確認しないとすぐにダメになってしまう。定期的なメンテナンスで看板が生きてくる。また目的に対して統一性のある看板にすれば観光客に対して良い看板になるのでは。</p>
<p>議題</p>		<p>(2) その他</p>
<p>協議</p>	<p>事務局</p> <p>田邊氏</p> <p>芝氏</p> <p>観光課</p> <p>芝氏</p> <p>事務局</p>	<p>これからガイドラインをどの様にステップアップして運用していくにあたり、何かご意見ありますか。</p> <p>前の議題でも少し出たが、サイン・看板で重要なことは看板の質を統一して繰り返すということ。繰り返すことでサインがここにあることを認識する。また出来る限り同じデザインでサインを繰り返すことでブランドを作っていくことになる。</p> <p>いろいろな分野、ジャンルで共通観念をもって検討していければ良いと思う。また第4回推進会議でも、エコ的な視点で看板に地場材や間伐材を活用できないかと意見が出ているがどうだろうか。</p> <p>間伐材などを活用できれば良いとは思いますが、どうしても予算の問題が出てくる。間伐材を加工してそれで業者に発注して看板を作成するため、どうしても通常より高額になってしまうため予算的に厳しいものがある。</p> <p>予算的に厳しいからやらないのではなく、これを行えば箱根のブランドになっていくものなので、工夫をしてどうやったらできるのかを模索してぜひとも実施していただきたい。</p> <p>確かに予算を理由にしてしまえば停滞してしまう。箱根関所での事例だが、景観に配慮した材料を使用すると予算をはるかに超えてしまうところを、業者の宣伝になるということで説得し予算内で</p>

		<p>やってもらったことがある。他にも、例えば10ある内の3だけ景観に配慮したものにする等、色々なやり方を考えれば手段はある。</p> <p>芝氏 箱根というブランドを利用したい事業者は数多くある。今は国や県でも間伐材や地場材の利用を推進しているので、実施できれば箱根のブランドになる。県などは工事看板などに間伐材を使用しているようだが、それについて箱根町はどうなっているのか。</p> <p>事務局 現時点で箱根町は特に何も行っていません。</p> <p>芝氏 では今後実施に向けて検討してほしい。県は今、地場材のブランド化をしているので間伐材などはかなりあるはず。箱根町にぜひ動いてもらいたい。</p> <p>事務局 これまで一年間ガイドラインを運用してきて、看板やサインを掲出する過程が足りないように思う。何を目的として、という手続きの部分が冒頭がないと運用がうまくできないのではないと思う。今は看板の作成にのみに特化してしまっているので、ガイドラインの改定も考えている。</p> <p>来年度もガイドライン運用の検証を継続していくので皆様のご協力をいただくがご了承いただきたい。</p>
--	--	---